

年頭のご挨拶

公益社団法人 鹿児島県看護協会 会長 八田 冷子



令和5年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

鹿児島市医師会の先生方におかれましては、本年も引き続き本会会員はじめ看護職へのご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

昨年、本会会長として選任された直後、新型コロナウイルス感染症の第7波に突入し、クラスターが発生した医療機関や施設等から看護師の応援要請が相次ぎ、本会においては微力ながら応援看護師の派遣調整に努めたところです。また、感染管理認定看護師には、県の感染症チームの一員として、その要請に応え尽力いただきました。加えて、昨年10月から鹿児島県・鹿児島市の委託を受け「障害者支援施設等の感染予防対策のための相談・支援事業」を開始し、施設分野ごとの研修や感染管理認定看護師の派遣支援事業等に取り組み、本年2月に事業報告会を予定しています。

コロナ禍が長期化する中、本会が公益法人としての使命と看護職能団体として一定の役割を果たせましたのは、看護の将来ビジョン「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を目標に「全世代型地域包括ケアを支える看護提供体制の推進」などの重点事業において基盤となる人材確保・育成に努めた成果と考えております。

特に「看護の質向上及び看護職の役割拡大の推進」においては、看護資格制度等研修修了者の活動支援を行っており、本県には専門看護師8名・認定看護師317名・認定看護管理者41名（R4.11月時点）、特定行為研修修了者82名（R4.4月時点）が登録されています。

看護資格制度につきましては、日本看護協会が国民への質の高い医療の提供を目的に、3つの資格認定（専門看護師、認定看護師、認定看護管理者）を行っており、認定者数は年々増加しています。このほかにも日本看護系大学協議会と日本NP教育大学院協議会が米国等の「ナース・プラクティショナー」を参考にしたNP教育の課程認定を行っており、現在、県内4医療機関に7名（R2年時点日看協調べ）のNP課程修了者が就業しています。これらの専門的な資格取得と役割発揮については先生方をはじめ職場のご理解とご支援が必要不可欠です。

今後、高齢者の急増から現役世代の急減へ局面が変化し、医療ニーズがピークとなる2040年に向け、看護職確保が喫緊の課題の中、先生方との連携のもと信頼のおける良きチームメンバーの一員として看護職がさらに役割を発揮し、人々が病気を抱えながらも住み慣れた地域で安心して暮らすことを支えていくことができるよう、本会としても引き続き最前線で活躍できる看護職の確保と活動支援に努めてまいります。

結びに市医師会の先生方が心穏やかにお元気で益々ご活躍されることを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。